

令和3年度第2回あきる野市子ども・子育て会議 議 事 要 旨

- 1 開催日時：令和3年12月22日（水）午後2時～午後3時30分
- 2 開催場所：あきる野市役所 別館3階 第1会議室
- 3 出席者：委員10人（欠席2人）
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶
 - (3) 報告

ア 令和3年度第1回あきる野市子ども・子育て会議における報告及び議題等に関する質問等及びそれに対する市の回答について
事務局から資料に基づき説明が行われた。

委員長

ありがとうございました。ただいま事務局の方から前回の書面開催の会議のいくつかの項目についてご説明いただきました。この件について何かさらにご質問、ご意見はございますでしょうか。

後ほど出てくればまたお聞きたいと思います。前回の報告ですのでこの説明で終わらせていただきたいと思います。

それでは報告事項の2になります。あきる野市子ども・子育て支援総合計画（第5章教育・保育、地域子ども・子育て支援事業）について計画値と実績値のいくつかの項目に乖離があるようですので理由について及びそれに伴う課題について事務局の方からお願いしたいと思います。

- イ あきる野市子ども・子育て支援総合計画（第5章教育・保育、地域子ども・子育て支援事業）の計画値と実績値の乖離についての理由及び課題について
事務局から資料に基づき説明が行われた。

委員長

ありがとうございます。かなりマイナスの乖離という部分が出ていますのでございます。とりわけ新型コロナウイルス感染拡大ということが直接、間接にいくつかの項目に大きく影響したようでございます。今後感染状況次第というところもあろうかと思いますが、感染症による乖離が生じたものと、必ずしも感染症で

ない物事が要因となって乖離が生じたものこの2つは区別をしながら今後、市の計画をどういうふうにするかという判断が必要になると思います。

この件についてご意見、ご質問はございますでしょうか。

委員

幼稚園、認定こども園の1号認定が30パーセントも減っているということでこれはすごく大きい減少です。ここで書いておりますように理由はまず、幼児人口が想定以上に減少したということと、もう一つは1歳児、2歳児からの保護者の就労率が高まって、1歳児、2歳児から保育園に預ける方が想定以上に増えたこと。両方の理由だと思います。これは事実なので受け入れるしかないですが、ここにくわえて今後幼児人口の減少、特に1歳児、2歳児、0歳児の減り方、また委員長からありましたこれから生まれてくる子どもがコロナの影響でもっと減るだろうということが予想されておりますので、今後1号児というのは3歳からですからこれから3年、4年にかけてさらに減少するというのを我々はしっかり認識しておかなくてはならない。それに対していろいろな施策があると思うんですが、3号児の枠を増やすのか、増やさなくても子どもが減っているので地域の中での子育て支援とかいろいろなサポートに対する施策を総合的に考えて、例えば幼稚園の1号児の部分の、保育室とか人は空いてくるので、そこをなにか活用するのかどうかとかそういう議論をしていただければと思っております。

それから、あともうひとつ幼稚園関係では8の一時預かり事業のこれは幼稚園型だと思いますが、これも46.5パーセントと減っております。これはコロナによって幼稚園は閉園したりとか、預かり保育は感染防止のために利用自粛をかなり厳しくお願いしました。ということで、仕事をしていて必要な方については保育所、認定こども園で受けてきたのですが、仕事をしていなくて、本来家に帰っても遊ぶ場所がないとかいろいろな事情で短時間も含めて、幼稚園の預かり保育というのは子育て支援も含めて子どもにとって必要な環境だったのですが、それをコロナで全て止めてしまったという結果がこの数字ですので、これは人数が減った以上に1号児中心に子どもたち、家庭にとっては負担が増えたという結果になったのかなと思っております。

私からは2つ関係するところをお話させていただきました。

委員長

関連でなにかありませんか。

委員

この一番上の30パーセント減っているという所にも絡んでくる話なんですけれども、先ほど前回の会議の追加資料ということでたくさんの資料を作っていたいで出してもらっています。こちらの資料というのが、もちろん資料2-2の中に数

字としては含まれている話ですが、それをさらに見やすくするために加工していただいたものになっています。今日出していただいた別紙の6から9がそれに当たるものになると思うのですが、どうしてもこの資料2-2に出ているのは保育園と幼稚園が分かれたものになりますし、各何ページに渡るものをまとめて見れるようにということで資料をつくっていただいておりますので、今後のニーズの変化だったり、コロナの影響ではない部分なのかどうなのかの資料に関しては、新しく出していただいた資料みたいなものが毎年更新しながら動きが全体で把握できる資料にして、子ども・子育て会議で皆さんがよく読み込んでいただいて、どんな傾向にあるのか、じゃあ次の計画を作っていくに当たってはどの部分が薄いのか、どの部分が濃いのかということを含めて、また、最後、資料の9を作ってもらっていますが、こちらは出生数、転入数、転出数という数です。毎年この傾向をとっていくことによって資料2-2にあるような様々な施策を行っていった結果どうい変化が生まれているのかというのが分かる数字だと思っています。それぞれの施策の中間報告の中でAやBだという判断がありますが、それは計画した数値のとおりに行ったか、やらないか今のパーセンテージの話も全てその数字です。では、その数字を上げていくことの目的は最終的なんなのかと言われると資料9の部分だと思っています。出生数が上がっていくこと、また、転入数が増えてあきる野で子育てをしたいと思う方が増えていくこと、もちろん転出する人が減っていくこと。なので、そういう意味では資料9というのが大事な数字になってくると思うので、この部分を上げていくのか、そのためにどんな施策をやっていくのかというのを今後、次期計画に向けてやっていく必要のある指標なのかなと考えましたので、事務局側にリクエストさせていただきました。

この資料は今後も毎年この数字しっかり押さえていきながらやれるように常に資料として提出していただけたらなと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員長

他はいかがでございましょうか。

それでは、私から1, 2点、要望を含めてですけれども、これから全体の少子化で子どもが減ってはいくのですけれども、認可保育所よりも3歳未満児だけのいわゆる3号子どもだけの認証保育所とか小規模保育所のほうが園庭がなかったり、3歳になったときまでにほかも探さなくてはならないということがあって、より、子どもがいなくなっているという現状があって、そうすると企業系などはそのままやめてしまうということも無いわけではありませぬので、施設種別毎に定員充足率の推移が分かるとあらかじめ見通しが立ちます。認可保育所よりも小規模保育の方がかなり定員充足率落ちてきているということになれば何か手を打たなければならないといったことが出てきますので、できれば定員充足率の推移が分かるような資料を出していただくと大変ありがたいなと思います。それから、もし可能であったら教えていただきたいのですが、これまでも人口が減っていると言いつながらあきる野市においても働く母親が増えていることによって、2, 3号、特に3号保育事業

が増えていっている。これからは真逆で少子化によってかなり需要が縮んでいく。供給過剰になる。基本的に市長村の子ども・子育て支援事業計画は需給計画ですから、増える事業に供給を増やすというのは考え方が分かりやすし、お金、手間がかかりますが可能なんです、減っていく事業に対し供給が過剰に増えてきたときに公立施設であれば統廃合ができますけど、民間施設が主流だとあればやめてしまえということができないので、供給過剰になったときの需給環境をどうふうに整備するのかというのが大変大きな課題なんです、その際に自治体により大きく分かれているのが、利用定員に対して実際に子どもが減って、供給過剰になったときに当然施設側としては利用定員を減らしてほしいわけですね。利用定員を減らすと単価があがりますから高い利用定員で子どもの実数が減って空きが出てしまうと低い単価が少ない人数に適用されて経営的にかなり厳しいということになるんですね。一応、国の方では3ヵ月のスパンで柔軟に料金は実態に応じて見直していいということになっているので、これまでそういうケースがあきる野市の施設で生じたかどうかは分かりませんが、利用定員の介入が生じたときにできるだけ柔軟に3ヵ月とは言いませんが半年や1年くらいでは少なくとも実態に利用定員じて動かすことがいいと思うが、そのあたりは市はどのような状況になっているか。可能であればお聞かせいただきたいのですが。

事務局

柔軟にももちろん対応すべき、ただ、幼児教育なので、教育・保育の施設の現場の質を落とさないようにするというのがまず大前提の上で、施設とともに教育・保育をきちんと提供できるようにしたいと考えておりますので、事業者と相談しながら柔軟に対応したいと思っております。ただ、施設毎というと、それぞれの理由になってしまいますので、ある程度市としてのルールを作成すべきかなというふうに今、検討しております。

委員長

あまり難しく考える必要は実はないと思っていて、教育・保育の質に直接は関係ないので、例えば90人の利用定員です、実員が少子化によって62人までおちましたという28人も減ってしまうわけです。そうすると単価的にはかなり、62人、70人でもいいですけど利用定員を下げると単価が上がって経理的には回るということになる。教育・保育の質には関係ないので。利用定員が全然減らない園もあれば、かなり減る園も、地域性も反映されるのだと思いますが、減ったところの園はかなり経営困難に陥りますので、それについては先ほど申し上げたとおり国も3ヵ月でも見直していいと、ただ、それだと行政が大変だと思いますのでそこまでの必要はないと思いますが、今後おそらくあきる野市においては、需要が減っていきますから、供給過剰になったときに減っていく需要に見合った形で柔軟に利用定員の変更を、利用定員を下げることを認めていただかないと施設としてはかなり苦しい。いろいろな自治体でなかなかそれを認めてくれない自治体と、それこ

そ半年単位で実員に応じて利用定員を下げさせてくれる自治体と、それこそ千差万別なものですから、今後検討いただくにしても、そこはかなり重要なものになるのでそれも重々踏まえた上で検討いただければと思います。

利用者サイドで子どもの保護者代表の委員いかがですか。

委員

自分の子どもも1歳児のときに保育園に入れたくて、やはりそのときに定員オーバーしてしまって入れなくて、姉も一緒に入りたかったんですけど、2人別々の保育園になってしまって、それで2年間位過ごしてという形にだったので、こういうふう増加いただければそういうご家庭も減るのではと思いました。

委員

ふと思ったのですが、あきる野市の人口数が減っていて、就労する保護者が増えていてということで、私のときはここののであったりとか五日市のひろばをすごく活用させていただんですけども、ここののに来るお子さんというのはご家庭で保育をされているお子さんが多いと思うのですけれども、例えばそういう市の現象によって、ここののを利用するお子さんも減ってきた場合に、とてもいい施設で、温かみのある場所なので、そういう場所をいろいろなところで活用していただけたらいいなというのを感じました。

もうひとつなんですが、2歳の女の子と常に関わっていて、この前、私のマスクが汚れてしまっていたので、マスクをちょっと外したんです。そのときに、私の口元をすごく見ていたんです。私たち大人は今まで生きていた中でコロナという時代にいきなりなって、大変は大変だと思うんですけど、1、2、3歳のお子さん達は生まれたときからコロナ時代に生きているので、先ほど、資料1-2にある障がいのある子のサポートなどもあると思うんですけど、これから長い目で見たときにコロナ時代でお子さんの成長に何か弊害があった場合に心のケアを幼稚園や保育園や小学校と連携して、サポートしていただけたら保護者としてありがたいなというのを感じました。

委員長

大事な課題であると思います。学校では基本、スクールカウンセラーがいて、おっしゃっていただいたことに近いものがあり、保育園については自治体によって、保育カウンセラーみたいなものが巡回、派遣することもあれば、そうでないところもありますので、そのことについて事務局から何かありますでしょうか。ここののが少子化になれば利用者も減る、多分心配されているのはあまりに減ったらそのまま施設もクローズするのではということもあるのかもわかりませんが、利用状況はコロナだったから特殊かもしれませんが、ここのの実情と今後の課題は何かございますか。

事務局

ここので行っております子育てひろばにつきましては、利用が少なくなっております。昨年、2年度につきましてはコロナの関係もございましたので子育てひろばの方が昨年の4、5月、5箇所、休止させていただいたような状況もございます。実際にコロナの関係がございまして、令和元年度につきましてはお子さん15,463人子育て広場の方で利用者があったのですが、2年度につきましてはお子さん7,250人に減ってしまっている状況でございます。一時預かりもここので行っております、そちらの方も685人いらっしゃったのですが、2年度は340人まで下がってきております。

ただ、今年度から委託しております社会福祉法人に5年間で契約させておりますので事業につきましては継続させていただいたような形になっております。

委員長

資料2-2にかなり個別具体的な話が載っていて教育・保育だけでなく、地域子育て支援事業、13事業について具体的に中身の記述がありますのでこれを含めて何かございますか。

委員

関連があるわけではないかもしれないですが、子ども・子育てを見ているといつても幼稚園・保育園って法律的には子どもは18歳までで、それなので、今度18歳まで10万円もらえるというのがあると思うのですが、この場では小学生、中学生はやらないかなという感覚なのです。子どもが減ってはいるんですが、問題行動を起こすお子さんとか、就労困難なお子さんが現場では実際すごく増えていると思うんです。ここにも書いてあるのですが、早期発見ということでスクールカウンセラーとかが常態ではなく巡回みたいな形で一週間に一回ずつとか行っているのですが、実際のお仕事を見ているとあまり深入りはせず、アドバイザー的なことをして先生が向き合う。そんな感じなのですが、もうちょっと人数を増やすとか、早めの手当てをすとかしておかないと中学校に行ったあたりにはどうしようもなくなり、最終的に社会に出るのが困難になるのではないかなというお子さんが実際にいらっしゃるの、幼稚園、保育園の間にもうちょっと細やかにお子さんの状態を専門家に見てもらい、そこから手当てをしてもらうという。特に障がいのあるお子さんは目立つとかあるのですが、それでも親御さんが嫌がるとお医者さんに行ったりしませんので、早ければ早いほど自閉症のお子さんとかは、3歳くらいまでに療育を始めてしまえばいろいろできるようになるのですが、やはり順応するのが困難ということになりますので、お子さんのことを考えると、早めに周りのみんなに助けをもらうだけでなく、自分から何かするとかそういう風にしてほしいのと、それでないと中学校位で大変なことになりまして、現場ではどうしようもなくなってしまうので、やはり幼稚園・保育園の間に小学校に入る前にみんな生活していく中で見つけるとかしていただきたいと思いますが。今、支援学級もあるし、支援学校もある

し、それから普通の学級に支援が入るということもできていますが、やはりまだまだ足りないなあるなといつも思っていますので、発言させていただきました。

委員長

ご意見・ご要望ということでよろしいでしょうか。

委員

先ほどのお話と、今のお話と、家庭について発言させていただきます。コロナで子どもを園に通わせることができなかったとか、いろいろな施設があっても、親が出せなかった、出したかったけれども施設で受け入れてもらえなかったとういことが1年以上続いていたと思うんです。この資料、子ども・子育て支援総合計画を見て感動したことがありますして、乳児家庭全戸訪問事業というのがあって、全ての家庭を健康課の保健士・民生児童委員が全戸訪問するという、そういう計画の元に日々努力されて、今回は特にこのことで助かったご家庭がいっぱいいらっしゃると思います。そこから連携をとりながらという、このところは見えないところをされながら今もお話にあった、そのときにお母さんが子どもの不安をどこかに行かなければ訴えられないのではなく、来た方に直接お話できることが日常的にあれば、例えばその方の名刺を見て今、話せなかったけど電話してみようかということが、多分、今度学校に行ったときに最初のつまずきの中で助けてくれる人がいる、そこがとてもこの市に来て良かった、安心感、安心の子育て。もう一つ気になっていた、この異常事態、これからも続くかもしれないこういう中で、子ども家庭支援センターというしっかりした、専門の方が相談に乗ってくれる窓口がどこまで利用されたのかというのが、前年度と比べると10くらいしか増えていない数のご報告があるけれどこんなに大変な時期だったから、もっと増えたのかな、もっとニーズがあったのかなと思いながら、実際に私は地域でお子さんに関わる事が多くて、やっぱりお母さん方はその子が小さくても、大きくてもいつも子育てに孤独を抱えておられます。ある日、突然子どもがおかしくなってしまったというとき、その間に悩みが相談するところがなかったという、あきる野市が温かい、窓口がここにもあるんだよということ、私が何かあったときにこういうところには行ってみましたかとお話したりするんですけども、コロナの中でそういう人と人とのふれあいの中で大変な親がいるんだというのをもう一回見直しながら支援していかなくちゃいけないと思っております。

もう一つ、学校に行って学級の中に入って、自席に座ってられない、入学から一週間もたたないうちに。そういう子が支援の中でだんだん席につくようになり、今はもう立派な次の学年に行く準備を出来るまでになった感動の場面を見たのですが、それには担任だけではできない誰かの力、その辺の支援の、今回、資料を見ると子育て支援の保育士増加のこととかが書いてありますが、やっぱりマンパワーを、もうちょっと利用して、声をかけて、お金の問題じゃなくて、子どものため

に何かしたいという大人って結構いると思うんですよね。そんな風感じております。

委員長

ありがとうございます。ひとつだけ整理をしておきたいのですが、委員もちょっと仰りましたが、実は子ども・子育て支援事業計画をいうのは学童期の子どもの放課後児童クラブを除くと、基本的には小学校就学前の乳幼児期の子どもと保護者が主たる対象でして、むしろ小学校以降については子ども・若者計画という国の法律に基づいて推進することになっていて、自治体によって、それとこれをセットでやっているところもあれば、分けてやっているところもあって、あともう一つ次世代育成支援の計画が法律に基づいてあって、これも大体18歳までを含んでいるのですが、乳幼児中心で、これも全セットでやっているところもあれば、セパレートしているところもあるので、あきる野市は子ども・若者計画は別ですよ。この会議ではない会議があって、そこで上の年代の子どもの問題を検討しておりますので、ここで大事な視点は共有してほしいを考えておりますが、メインは乳幼児期の子ども・子育て家庭とご理解いただければと思います。

それから今、おっしゃったとおりでございますが、実際、いろいろな子育て家庭に対する支援というのはここのでの利用者支援事業もありますし、地域行動支援拠点事業もありますし、先ほど全戸訪問事業もありますし、いろいろなものがあって、それを総合的に組み合わせていくという運用が大事なんだろうと思います。日本中の仕組みとしては国の事業があって、自治体の事業があって、同じ事業であっても自治体に運用によってかなり結果・成果違ってきていますので、実際の利用者寄り添って考えていかなければいけない。そういう意味で利用者の声を聞くというのは大事なことなのだろうと思っています。

委員

別紙6の待機児童数の資料を拝見させていただきました。あきる野市は比較的待機児童数は少ないイメージですが、年度途中の入園についてはなかなか難しいのかなと感じました。平成28年に比べて令和3年度に向けて全体的に数が減ったというのは、こちら側の努力の結果なのか、それとも数字で示されたお子さんの数が減ったからなのかは知りたかったです。あと、年度途中で例えば令和3年であれば10人が入れない方いらっしゃる、10人というのは平成28年の49人に比べれば向上したと思うのですが、この最中10人が仕事が決まっているのにお子さんの預け先がないという、お困りになっている方がいるのかなど。私も年度途中から仕事を始めて、近くに両親がいて、民間の託児所をお願いして、年度末になると入れたみたいな形になっていたのですが、この年度途中での入園については、是非商工会というのの仕事の支援をしている事業なんですけども、そういうので困っている方もいらっしゃるのでは、そこに目を向けていただければと思います。

委員長

おそらく全般的に年度当初に入っていてしまって入れないということもあるでしょうし、ここで見ると0歳なのでおそらく育児休業の延長等も色濃く出てタイミングの問題も大きかったと思います。そしてもう一つは需給計画がありますけど、市全域で計画上は需要に対して供給があるけども、実際には市内の地域の偏在があるので、こちらではあまり子どもがいなくて、施設に余裕があるけども、こっちは逆に子育て世帯がたくさん住んでいて、やはり近くに行きたいから供給が追いつかないと。机上の計算では待機児童は出ないはずが、出るという問題があって、そのあたりをいかに丁寧にやるのか、先ほどあった兄弟関係の同じ園に入れないということも結局は、利用者から見ると需給のミスマッチ、地域の偏在であろうと思うのですけれど、この話で何かせっかくですから事務局からあれば。

事務局

確かに4月が入りやすいというのが、皆さんの中にもあるので、10月にかけて待機児童が増えているのは別紙6の表でわかることと思います。あきる野市で言えば大きく平成28年から令和3年にかけて待機児童数が減っていくのは途中途中で幼稚園が認定こども園に変わった関係で保育の人数が増えたというのが、一つの要因であると思っております。今、委員長からお話がありましたとおり保護者のニーズと保育園、認定こども園の場所がミスマッチで待機児童が増えてしまったり、減ってしまったりという現状がございますので、そこは丁寧に分析していきたいと思っております。

委員長

何かございますか。

委員

民生委員として赤ちゃん訪問をさせていただいているんですが、そのときいつも言うのは、こういう会にも参加させていただいていますし、健康課の資料等も見せていただいている中で、あきる野市の子育て支援の充実さは誇れるものがあるのではないかと思っております。というのは、自分も子育てをしながら仕事をしていただけですけども、その当時の子育て支援というのはほとんどなかった。今から40年位前のことなんですが、本当に苦労しながら、自分が家を空けなければならないときには個人的に人を頼んで、そこに預けに行くということもしばしばあった中で今はこうやって、いろいろなことを知る機会がありまして、こんな充実した中だったら、もっと皆さんお子さんを産んで育ててほしいなという気持ちでいっぱいです。

個人的な話になるのですが、私の孫はタイに住んでいて、新型コロナウイルスの関係で4月から1学期間、1日も学校に行けなかったんですね。リモート授業

だったんですけど、孫はリモートっていうものがいやでいやで逃げ回っていたんです。それでタイで1学期、勉強できなかった、リモートもなかなか難しかったので、日本に帰ってらっしゃいと言って、企業も協力してくれて日本に帰してもらったんですね。夏の終わりに帰ってきて、2学期から多摩川幼稚園に入れていただいたんですけど、それも幼稚園によっては「うちは難しいですよ途中から」というところも他市に聞くとあるらしいのですが、本当に快く受け入れていただき、いい先生に恵まれ、2学期のずっと一日もいやと言わず楽しく通っていたんですね。12月26日にタイに戻るのですけれども、幼稚園が終わるのがいやでいやで、今日も園長先生のところへ娘と一緒に挨拶に行ったらしいのですが、一回先生とお別れしたから悲しいから行かないと何度も言ったらしいのですが、なんとか先生にも会えたという話で、いかに日々の活動が手厚く幼稚園の中でされていたか、やはり、子どもたちというのは正直ですから嫌ならいやと言うし、良ければもっと行きたい、毎日行きたいという風になって、子どもの態度が一番、幼稚園の運営に反映されているんじゃないかなと、すごくありがたく感じました。だから、あきる野市の教育・保育は本当に充実していると感謝し、それから子どもが減っているという状況をどんな風に考えていかなければならないかなと思うと、よく過疎地域で町おこしなどしますけれど、あきる野市の魅力をもう少し出してあきる野に転居したいなという人がいっぱい増えてくれるといいなと思っております。うちのまわりは高齢ばかりの世帯なのですが、最近は小さいお子さんがいる若い夫婦が家を建てて暮らし始めていてすごくありがたいので、これは子育て会議の中だけで考える以前にあきる野市の街づくり、そういうことをもう少し力を入れてやっていただき、魅力ある、あきる野市にしていただけたら、人がいっぱい入ってきてくれるんじゃないかなと思います。

委員長

たしかに子どもがどんどん減っていく大変厳しい時代ですが、発想を変えればだからこそ質を上げて、一人一人のお子さんを大切にしながら、魅力を高めるというのも一つの視点かなと思います。

副委員長

直接この会議とは関係ないのですが、1年生と2年生はマスクをして先生がずっとやっているんです。心が伝わるというのは、目で伝わるとか言うんですけど、口元とか全体でやっていることで、質の問題になってくる。私、お誕生日のときに希望者はお誕生日カードを書いてあげるからおいでと言うと何人か来るんですけど、じゃあマスクとってと言うと、この子ってこんな顔してたんだっけと思うこともあります。それで、やっぱり質の問題の中で心を育てるといえるものがあると思うんですけども、人間の優しさとか、暖かさとかっているのはやはり、言葉とか口元でとか。小学生なんかは小さい子はハグしてあげたり、背中さすってあげたりあるんですけど、今の時代それが伝わらなくて、人数が減って施設に入れるようになっただけ

れども、心が育つのが難しいのかなとちょっと思います。

委員長

確かに子どもに対して全部を見せないというのが、あまりよろしくない、そういう研究もあるようでございますので、工夫して近い距離では難しいですけど、少し距離を置いたり、アクリル板をはさんでということであれば。いろんな資料を出して工夫して少しでもいい環境を作ってあげなければいけないだろうなと思います。

他に何かございますでしょうか。

委員

先ほど待機児童の数のお話があったということで、今の10月時点での数も含めて質問なんですけれども、特に0、1歳児あたりは育休を延長するために、保育所に断られないと育休が延長できないという現実あるじゃないですか。本当は復帰は4月にしたいんですけども、自分の育休は1年で終わってしまう。そこからは保育園を断られる続ける必要がありますよね。入れなかったという証明書をもらって育休延長という制度がある関係で、本当に今、入りたい訳ではないけれども待機児童に含まれているということもあり得るのかなと思うのですが、実際に今ここに出ている数字はそのあたりのニーズは一切関係ない、すべての数字を上げているだけですよ。実際にこれが、今すぐに入りたいと思っている率かどうかの判断ではないということですか。

委員長

特定希望者は外しますね。この園以外は行きたくない。他に空いていてもここしか行かないと言って待機している人は一般的な待機児童と一緒にしてはいけないので特定希望者は外すというこもあります。その辺も含めて事務局は何かコメントありますか。

事務局

希望ということで、育休延長をするために、保育園のだめでしたというものを提出しなければならないという、そういう子どもについてはこの表からは外しております。あと特定の園、1園だけを希望しているという方は外しております。

委員長

他に何かありますでしょうか。

委員

先ほどのお話しで、特別支援の関係で早期発見、早期対応をとというのが大事でそういう体制を、というお話だったと思いますが、私、ずっと市で特別支援の委員もやっております。本来であれば市の職員からお話することかも分かりませんが幼

児期の障がいのある子どもを誰が責任を持って見ているのかというところが、行政的にあきる野市でいうと、例えば母子保健の関係で健診でご覧になってますし、幼稚園、保育園も結構受け入れるわけですね。それは保育課が見ているわけですが、その障がいに対してある程度責任を持ってような形にはなっていないですし、特別支援だと教育委員会からもいろいろと支援もしてもらっています。今、あきる野は教育委員会、保育課でがんばっていただいて、教育相談所の臨床心理士が、巡回相談ということで幼稚園、保育園、年2回とか回ってきていただいて子どもを見ていただいてアドバイスをもらったり、それから幼稚園、保育園も十数年かけて勉強してきましたので、どこでどういうタイミングで保護者に話をするのかというのが難しいのですが、なんとか子ども家庭支援センターとかここに来ていただいている市の方とも相談しながら、医療機関につなげたりとかやっておりますので、特に私立幼稚園の場合は都内の平均の4倍に近い障がいがあるお子さんを受け入れているんですね。それが人件費がかかりますのでかなり負担があったんですが、実は今年から市の方で新たに補助を増やしていただいたりとか、市にも応援していただいて、あきる野市については就学前の特別支援教育についてはかなり充実しているかなというのが実態だと思います。

それから、あきる野市、結構子育て支援頑張っているが、PRどうなのかという話があったと思いますが、質問の17番がそうなのですが、要は子育て家族があきる野に魅力を感じて引っ越してきていただくような政策をしないと幼児人口は増えないだろう、それから親の数はどんどん減っていきますから、減るのは分かっているわけで、それを少しでも減りを減らすために、17番のことはどうなのかということなので質問したのですが、最近特に福生市がですねそれをPRして、3日位前に日経新聞に福生市とですね、名前が出るような記事が出ていたわけですけど、まあ、行政的な答えを元に子育て応援サイトののキッズを運営をしております、周知をしております。なんとかもやっておりますということなんですが、これだけではやはりアピールが足りないのかなと思います。これ以上の何かをせっかくこころのという素晴らしい施設もありますし、先ほどお話しをした特別支援も手厚くやっているわけなので、もう少し何かPRをすることで出来るのではないかと感じております。

委員長

ありがとうございます。そういう点につきましても、次の会もできれば参集できるようにと思いますが、委員の方からも前に進むご意見をもらえると大変ありがたいかなと思います。

(4) 議題

- ア あきる野市特定教育・保育施設の利用定員について
事務局から資料に基づき説明が行われた。

委員長

ここで意見を求めるのは個々、具体的な幼稚園の変更ではございませんで、この会議の権限ではございませんが、最初にお話ししたようにこの会議は1、2、3号子どもの保育の需要に対して供給を満たすということがメインでございますので、ここに記載されているように市の全部の現定員とそれから今の件を反映した新しい利用定員ということになります。おそらくこれが今後の姿を象徴しているのだと思います。子どもの数も減りますが、働く女性、母親が増えるということで1号が減って2号が増えるというのが一般的な傾向です。加えて3号も専業主婦が減って働く方が増えるということによって需要が高まる。ただし、全体が減っていくので縮小していきながらこういう傾向がさらに進んで行くんだろうと思います。とりあえず、次年度からはこういう1、2、3号の利用定員、さらに保育の需要に対して供給が十分に追いつくかどうか、次年度以降結果が出てから点検、評価ということになりますので、一応こういう変化をしているんだということについてご了承いただきたいと思います。その前に何かご意見、ご質問があれば伺いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。本会議においては利用定員についてを了承いたします。

イ その他

特になし。

(5) その他

特になし

(6) 閉会

副委員長

ここ2年コロナで世の中が大きく変わりましたが、学校が休校になったり、会社がリモートになったりしましたが、行政のご指導で保育園や幼稚園や学童クラブ、この3つは何の変わりなく平常に事業を行ったわけです。そのおかげで子育てに関しては保育園も幼稚園も学童もそうなんですけれども、お母さんやお父さんが来ていただいてコロナ禍で預かっていたいて助かったとすごく感謝される場所もありました。これが、強い行政の指導のたまものであると思っております。そういう中、委員長には遠方より交通の便が悪い中、あきる野市まで来ていただき毎回ご指導をいただきまして大変ありがとうございました。委員の皆様もなんとかここまで来れたこと良かったと思っております。コロナ3年と申します。行政を中心にもうひと踏ん張りして子どもたちのために良いあきる野市を作るためにまた頑張りたいと思いますので、2年間委員長中心に委員の皆様ありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、あきる野市子ども・子育て会議を閉会させていただきたいと思います。今期の委員はこれで終わりということですので、いろいろ意見を賜りましてありがとうございました。お疲れ様でした。